

研究結果報告書

「陰陽五行説」を中心とする日中民間信仰の文化交渉

所属：浙江理工大学 外国語学院 日本語学科
役職：専任講師
氏名：張 麗山

陰陽五行を中心とする日中における民間信仰の交渉を対象とした研究を行った。陰陽五行説はそもそも中国先秦時代の諸子百家における陰陽家が専らに唱えた学説であったが、漢代以来、学派としての陰陽家が衰えてきた一方、その思想が儒家・道家などの各種の学派に吸収され、ついに中国古代文化の根幹にある思想になった。日本の陰陽道もこういう流れを汲んで変容されたものであるが、次のような民間信仰から見れば、受容の実態はより複雑なようであった。

五龍祭は平安時代にできた陰陽道の祭りであり、祈雨に行われた儀式であった。中国漢代の儒者董仲舒の『春秋繁露』にすでに「五龍」を作って雨を祈る求雨法があり、それは陰陽道五龍祭の起源だと思われがちであった。ただし、董仲舒求雨法の儀式は祈雨日の五行属性に応じる龍で祈雨するのであって、五つの龍を一つの壇で同時に祀るわけではない。すなわち、陰陽道書『文肝抄』に載せられていた五龍祭における五龍を同壇に祀ることと異なっている。一方、唐の玄宗時代に「五龍祠」があり、その儀式が五龍祭とすこぶる似ている。しかも、当時日本から遣唐使などが頻りに派遣され、その中に春苑玉成などの陰陽師もいる。それによって、日本の五龍祭は唐の「五龍祠」から直接影響を受けて成立した儀式だろうと推測された。

また、土公も本来陰陽道の土神とされた。この神は、日本では少ないが、いくつかの神社で祀られている。一方、土公は現在の中国ではすでに馴染みのない神になり、特に近代以来の中国における土公信仰の実態がほぼはっきりしていないが、申請者が四川の古本屋で購入した『地母土公経』や雲南省の甲馬紙土公を考察することで、近代における中国土公信仰の状況をすこしずつわかってきた。その結果、日本における五行祭などの土公関係の民間風俗は実に近代中国の土公信仰と類似していることが明らかになった。

研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 日本五龍祭与中国的文化関係、張麗山、日語学習与研究、2015年10月
2. 近代中国の土公信仰—四川と雲南を中心として—、張麗山、東方宗教、2016年5月

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)